



2012年 4月14日(土) 読売新聞

首都高の安全守る 小学生が点検業務を体験

首都高速道路の安全を守る仕事などについて学ぶ、小学生対象の職業(しょくぎょう)体験プログラムが、3月下旬(14日)に初めて行われました。その様子を取材しました。プログラムは小学5、6年の約20人が参加。子どもたちに働く楽しさを知ってもらう活動に取り組む団体(だんたい)「フューチャー イノベーション フォーラム」と、首都高速道路株式会社(かほしぎ)会社の共催(きょうさい)です。同社西東京管理局(東京・千代田区)などを見学しました。

1都3県の約300キロを結ぶ首都高は、高速道を見回る日常点検(てんけん)、地震(じしん)や台風(たいふう)の時に異常(いじょう)がないか確認(かくにん)する臨時(りんじ)点検、5年に1度の定期点検が行われています。

同社の池谷勝之(いけやかつゆき)・広報(こうほう)室長は「点検で大切なのは、近くまで行き、目で見て、触(さわ)ること」と話します。塗装(とそう)がはかれたり、ボルトが外れたりした所などを重点的に点検するそうです。

私たちも、高所作業車に乗って同管理局敷地(しきち)内にある首都高の高架橋(こうかきょう)を点検させてもらいました。車が通る振動(しんどう)を感じながら、ハンマーでコンクリートをたたきます。中に隙間(すきま)がある部分は、乾(かわ)いた高い音がするそうです。様々な大きさの隙間を設けたコンクリートの模型(もがい)をたたくと、簡単(かんたん)に音の違(ちが)いを聞き分けられました。

損傷(そんしょう)が見つかったら、危険度(きけんど)の高い場所から優先(ゆうせん)して修復(しゅうふく)します。

このほか、超音波(ちょうおんぱ)を用いて鋼材(こうざい)の内部にある傷(きず)を調べたり、紫外線(しがいせん)を当てると色が変わる物質(ぶっしつ)を使って鋼材の表面にあるひび割(わ)れを調査(ちょうさ)したりする作業も体験しました。

見学後、同社の橋本圭一郎(はしもとけいいちろう)社長が、参加した小学生の質問(しつもん)を受けました。首都高の未来について聞かれると、「首都高は働き過(す)ぎだが、健康な状態(じょうたい)で、次の世代に引き継(つ)ぎたい」と答えていました。地道な作業の積み重ねが、安全を支えているのだと思いました。

〈ヨミウリ・ジュニア・プレス取材班=高2・江田翔太(えだしょうた)、高3・高橋美桜(たかはしみお)記者〉



ハンマーで首都高の高架橋をたたいて異常がないかどうか調べるジュニア記者

作成日: 2012年04月18日

最上部へ

ホームへ

Copyright (C) 1997-2003 Yomiuri Junior Press

記事を読んだ感想を聞かせてください! メールアドレス: junior@yomiuri.com